

令和2年度 日歯女性政策参画等調査結果と今後の取り組み

日歯は、令和2年度も都道府県歯を対象に「女性の政策・方針決定参画状況調査」を実施した。平成23年度以降の調査結果や推移と併せて報告する。

歯科医師会における役員・委員の全国総数に占める女性の割合(図1,2)は10%未満だった。過去9年間の推移は、極僅かな増加が見られるもののほぼ横ばい。女性活躍推進法や一億総活躍プランが発表された平成27~28年も特に著しい変化はなく、低迷が続いている。しかし、女性委員が在籍する委員会が増加しており、女性参画向上の兆しが見える(図3)。

男女共同参画白書(令和元年)等によると、歯科以外の分野でも検察官や裁判官等法律分野で20%超、国会議員の衆議院議員10%未満、参議院議員は20%、教育分野では小学校校長20%、中学・高等学校校長は10%未満、民間企業の課長、部長相当職は11%、6%と低く、第5次男女共同参画基本計画<女性の管理職登用>も30%目標期限を「2020年代早期までに」と延期している。

一方、諸外国は方針決定のポジションに、一定割合の女性が就くクォータ制を導入するなど、日本の法整

備以上に男女格差は正に向けた政策を打ち出している。クォータ制は、女性に関わるライフイベント等の問題に重要であるばかりでなく、統治の本質的なところで既成概念にとらわれない変革の可能性をもたらすと言われている。平成29年FDIマドリッドでのWDW(世界的女性歯科医師部会)セッションでも、クォータ制について議論が交わされ、過去にFDI会長を務めたミッシェル・アーデン・元ベルギー歯科医師会会長は「どの組織も方針決定の場に女性が50%いることで可能性が広がる」と訴えている。わが国では毎年誕生する歯科医師の半数近くが女性である現状を踏まえ、今後、より多くの女性の組織参画を促し、また、方針決定のポジションへの参画を働きかけていかなければならない。

「女性歯科医師の活動支援」や「男女共同参画推進」事業の取り組み状況は(図4)、女性関連組織が会内に存在するか否かにかかわらず、年々上昇している。

しかし令和2年は、増加しつつあるこれらの事業も、コロナ禍でほとんど中止。残念な結果となった。ただ、Web研修会を開催し「リアル研修会よりも参加しやすい」と好評を得て成果をあげている歯科医師会や、Webで会内の女性役員や委員との座談会、会外や他県の組織との意見交換会を積極的に開催し、新たなトライアルに挑戦した歯科医師会もある。今後、コロナ禍ではどのような取り組みが必要かとの設問に対する記述回答の中から主なものを図5に示す。

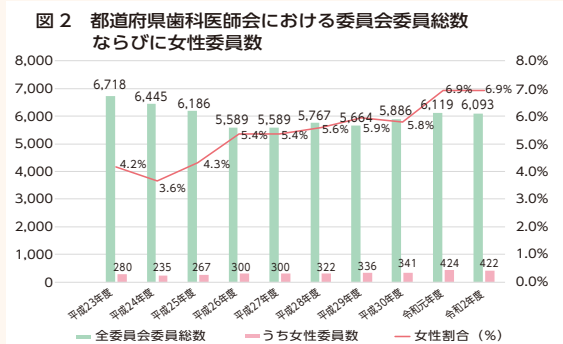
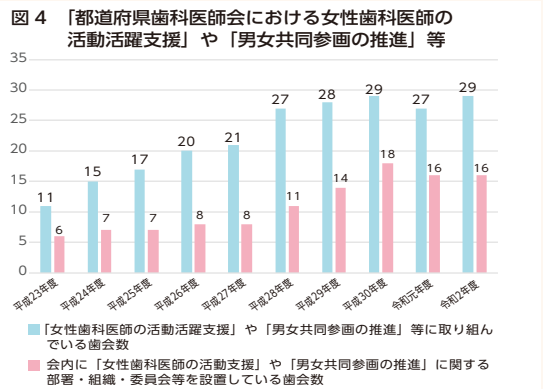
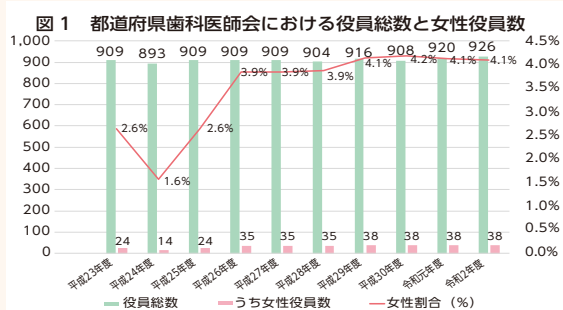


図5 コロナ禍では今後どのような取り組みが必要であるか

- 今後は、コロナ感染状況と、新たに判明した医学的見地に基づき事業を展開すべきと考える。コロナ禍の副産物ともいえるWebの活用は会員の利益に合致する面も多くある。
- Webを積極的に活用し迅速な情報の開示や提供の場を設ける、また情報交換の機会を多く作る等で、会員には「常に他者とつながっている」「社会と関わっている」という安心感も提供でき、不安解消につながるという点でも有効と考える。
- 家事、子育て、介護と仕事の両立の状況で忙しい中、Webを活用した意見交換会・研修は、子どもを預けることがなくて済むので、自宅で行うことができる人が増えるだろう。
- 子どもが学校や保育園に行けない状況等で、働き方に大きい影響が出るのは女性勤務医や歯科衛生士と考えられ、しかも勤務医は会員でない場合も多い。そこで、意見交換会等実施の際は、女性勤務医を雇用している会員に、意見の抽出を依頼する必要があると思われる。また、歯科助手、受付等についても歯科医院全体の問題として考えることも必要だ。
- コロナ禍では家庭での生活環境も否応なく変化させられた。女性が家庭内暴力の被害者になることも多く、その数も増加してきていると聞く。社会状況も厳しさを増し、雇用についても女性への影響は大きい。女性歯科医師がそのような被害にあっているかどうか知る手がかりはないが、今後女性会員の現状を把握する取り組みは、男女共同参画推進事業を進める上でも必要。
- 女性会員有志に呼び掛けてグループLINEを作成し情報交換ならびに不安の早期対策を行っている。

女性就業支援サイト活用に向けて

「女性歯科医師就業支援サイト」が日歯HP内に設置されてから約4年が経過し、その活用方法が課題となっている。現在、若手歯科医師活躍ボードにおいて、その改善策等の議論が行われており、1月21日(木)開催の第7回同ボードでは、日歯代議員や県歯役員に就く女性会員2人を含む3人をオブザーバーとして招聘し、多岐にわたる意見、アイデアが出されるなど活発な意見交換が展開された。

日歯では、今後も、より多くの歯科医院・求職者の利活用につながるサイトを目指して改善に努めていく。(日歯理事/若手歯科医師活躍ボード責任者・佐藤真奈美)